



図書館だより

No. 158

2018年5月号

URL <http://www.lib-iwata-shizuoka.jp/>

磐田市立図書館 発行



5月の図書館カレンダー

『こどもの読書週間』4月23日(月)～5月12日(土)

	1(火)	2(水)	3(木)	4(金)	5(土)	6(日)	7(月)	8(火)	9(水)	10(木)	11(金)	12(土)	13(日)	14(月)	15(火)	16(水)
中央		2歳位～10:30～ 3歳位～15:00～					休		2歳位～10:30～ 3歳位～15:00～			小学生10:30～		休		2歳位～10:30～ 3歳位～15:00～
福田		～3歳位10:30～	休	休	3歳位～10:30～		休		～3歳位10:30～			3歳位～10:30～		休		～3歳位10:30～
竜洋			休	休	3歳位～10:30～		休			2歳位～10:30～	0歳位～10:30～	3歳位～10:30～		休		
豊岡			休	休			休				2歳位～10:30～ 15:30～			休		
にこっと	8月オープンを目指しています。															

	17(木)	18(金)	19(土)	20(日)	21(月)	22(火)	23(水)	24(木)	25(金)	26(土)	27(日)	28(月)	29(火)	30(水)	31(木)
中央			★		休		2歳位～10:30～ 3歳位～15:00～		休	小学生10:30～		休		2歳位～10:30～ 3歳位～15:00～	
福田			3歳位～10:30～		休	休	休	休	休	休		休		～3歳位10:30～	
竜洋	2歳位～10:30～		3歳位～10:30～		休		休	2歳位～10:30～		3歳位～10:30～		休			2歳位～10:30～
豊岡		2歳位～10:30～ 15:30～			休		休		2歳位～10:30～ 15:30～			休	休	休	休
にこっと	8月オープンを目指しています。														

休=休館日 □=おはなし会(読み聞かせと手遊び) ★=親子ふれあい広場
「とよかんおたのみ会」10:30～11:30
※中央図書館の第2・第4土曜日はストーリーテリングほか4歳くらいから楽しめます。
※所要時間は20～30分程度

◎蔵書点検による休館
福田図書館 5/22～5/26
豊岡図書館 5/29～6/1
※月曜日は、通常の休館日

★中央図書館 入館者 600万人達成！！★

磐田市立中央図書館が平成30年4月15日、入館者600万人を達成し、記念セレモニーを行いました。

600万人目の入館者は小出さん(見付)親子です。セレモニーでは、くす玉を割り、節目を祝った後、小出さんに教育長から新造形創造館作製の「花瓶」を贈呈し、伊藤中央図書館長から花束が贈られました。小出さんからは「突然のことで驚きました。図書館のすぐ近くに住んでいることもあり毎週よく利用しています。今後も子どもの成長とともに利用していきたい」とのコメントをいただきました。

今後ともより親しまれる図書館を目指し、職員一丸となって取り組みます。

写真左から 村松教育長、小出さん親子、磐田市のイメージキャラクターしっぺい▶



イベント案内

読み聞かせボランティア養成講座 参加者募集

日時 6月7日・14日・21日・28日(木) 10:00~11:30
場所 中央図書館 2階 視聴覚ホール
対象 図書館や学校等でボランティア(読み聞かせ等)活動を希望される方
内容 磐田市立図書館や学校等でボランティアをされる方を対象に
読み聞かせの方法や本の選び方の方法等を学べる講座を開講します。
講師 寺田美津子さん(虹文庫 代表)
定員 30人(4回とも出席できる方)/参加費無料
託児 10人程度(先着)
持ち物 筆記用具
申込み 5月1日(火)9:00~5月31日(木)17:00に直接または電話で中央図書館まで。

《問合せ先:中央図書館 TEL0538-32-5254》



茶の間ひととき読書講演会

絵本ではじまる親子の会話の大切さを再認識しましょう。

日時 6月8日(金) 10:00~12:00 ※開催時間は予定です。
場所 中央図書館 2階 視聴覚ホール
演題 「親子で育むブックコミュニケーション」
講師 元静岡大学教育学部 非常勤講師 滝井 なみき さん
定員 150人(入場無料・事前申込み不要)当日、直接会場へお越しください。
◇当日は、お子さんが好きな絵本や本を1冊お持ちください。

《問合せ先:中央図書館 TEL0538-32-5254》



【蔵書点検による休館のお知らせ】

福田図書館・豊岡図書館・竜洋図書館の3館では、下記の期間中、蔵書点検のため休館させていただきます。

みなさまに気持ちよくご利用いただくため、この期間中に資料の点検作業をします。休館中は、開館している他の市立図書館をご利用ください。

《休館期間》 福田図書館 5月22日(火)~5月26日(土)
豊岡図書館 5月29日(火)~6月1日(金)
竜洋図書館 6月5日(火)~6月9日(土)
※上記期間前日の月曜日は、定例の休館日となります。

《おねがい》 休館中に返却する際は、開館している他の市立図書館窓口へ返却いただくか、図書館の返却ポストへ入れてください。ただし、CD・DVDなどAV資料のポスト返却は、破損のおそれがありますのでご遠慮ください。AV資料や相互貸借資料は、図書館事務室(月曜日は除く)へ直接お返しください。



~レファレンスの窓から~ 第61回 みんなの疑問を図書館へ来て調べてみませんか!!

Q. 絵本『サリーのこけももつみ』に描かれた木はこけももには見えないのですが、何の木ですか?

A. 『サリーのこけももつみ』はアメリカ オハイオ州出身の作家が描いた絵本で、原題は『BLUEBERRIES(ブルーベリー) FOR SAL(サリー)』といいますが、この絵本で「こけもも」と呼んでいる木は、実際は「こけもも」でもなく、日本で見かけるブルーベリーの木でもありません。アメリカ北東部からカナダ南東部にかけて自生しているローブッシュブルーベリーの木です。ローブッシュブルーベリーは改良が進んでいないため、野生のまま果実が小さい品種です。ブルーベリーが日本でよく知られるようになったのは1980年代後半のことです。それ以前に絵本を翻訳したので、日本の高山に生えるブルーベリーと近い仲間である「こけもも」と翻訳したのでしょう。『ブルーベリーの絵本』(農文協)が参考になります。

展示会

中央図書館

★開催時間：火曜～金曜 9:00～18:00
土曜・日曜・祝日 9:00～17:00
★会場：中央図書館 1階 展示室

《問合せ先：TEL0538-32-5254》

磐田市写真連盟 第14回フォトアート合同展	5/12(土)～ 5/20(日)	年に一度、8クラブが合同で写真展を開催します。
第19回 LEMON の会絵画展	5/23(水)～ 5/31(木)	油彩・水彩・日本画・木炭画・パステル等、会員の作品を年1回発表します。

～お気に入りの1冊～

☆利用者の方からのおすすめの本です。素敵な本との出会いを応援します。☆

紹介者(パノラマ)：yamamasu

題名：『いちまいの絵』

—生きているうちに見るべき名画—

著者：原田 マハ／著 (集英社／刊)

最近少しだけ絵を見ることに関心が出てきたので、絵が描かれた背景がわかればもっと面白くなるのではないかとリクエストしました。

期待どおり、様々な切口で絵の解説や感想が書かれ、本物の絵を見たくなりました。生きているうちにいくつ見られるかわかりませんが、気にとめていようと思います。



～電子図書館から1冊～ 第11回

さあ、今月も「電子図書館」でクリックひとつから、時空旅行に出かけましょう！！
操作方法などは、お気軽に図書館職員にお尋ねください。

『ゲルハルト・ハウプトマン』

森 林太郎 (鷗外) / 著

「舞姫」や「高瀬舟」などで有名な森鷗外(1862-1922)によるドイツの劇作家・作家・詩人のハウプトマン(1862-1946)の評伝。この赤松文庫所蔵本には表紙と奥付がないため詳細は不明ですが、国立国会図書館所蔵の明治39(1906)年10月に春陽堂書店から刊行されたものと同じ内容です。

軍医として22歳から4年間のドイツ留学の経験を持つ鷗外は、ドイツ語からの翻訳作品を多く残しました。

彼が訳したハウプトマンの戯曲「僧房夢」(明治42年「歌舞伎」連載)や「寂しき人々」(明治44年「読売新聞」連載)は、東京の劇場で上演されました。

鷗外は、ドイツから帰国した翌年の明治22年2月、西周の媒酌で、赤松則良の長女登志子(としこ)と結婚します。翌年9月長男於菟(1890-1967)が生まれますが、10月に別居、11月に離婚しました。その後、再婚した登志子は、明治33年1月に亡くなります。当時、小倉(くら)に赴任していた鷗外は、友人の賀古鶴(かこつるど)からその知らせを聞き、「嗚呼是れ我が旧妻なり。於菟の母なり。赤松登志子は、眉目妍好ならずと雖、色白く丈高き女子なり。和漢文を読むことを解し、その漢籍の如きは、未見の白文を誦すること流るゝ如くなり。同棲1年の後、故ありて離別す。」と日記(2月4日)に記しています。

於菟は、鷗外の母峰子(みねこ)に大切に育てられ、東京帝国大学を卒業後、解剖学者になりました。随筆家としても知られ、昭和17(1942)年に発表した「鷗外の母」には、第一高等学校在学中の明治41年4月、祖母とともに初めて見付の赤松邸を訪問した際の思い出が書かれています。大きな屋敷の薄暗い電灯の光の下での於菟と峰子の緊張感、思いがけない対面に喜びを隠しきれない赤松夫妻の様子が描かれています。



前号の訂正

前号の電子図書館から1冊は「第10回」でした。訂正してお詫び申し上げます。